

THE NARASHINO CHUO ROTARY CLUB WEEKLY BULLETIN

習志野中央ロータリークラブ週報

会 長 高橋 利幸
幹 事 鶴岡 健一

例 会 日： 木曜日 12 時 30 分

例会会場： 習志野商工会議所会館 3F

事 務 局： 千葉県習志野市津田沼 4-11-14

2025-26 年度 国際ロータリーのテーマ 国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツツォ



「よいことのために手を取りあおう」

第 1 8 0 9 回 2 0 2 6 年 4 月 9 日例会

司会：三代川雄哉会員

週報：三代川浩一会員

◆ 点鐘 <高橋利幸会長>

◆ ロータリーソング 「我等の生業」

◆ お客様紹介

入会予定者 戸村文彦様

◆ 会長挨拶 <高橋利幸会長>

本日は、新入会予定者の戸村文彦さんが、例会に出席して頂きました。4 月 16 日の 40 周年記念例会にもご参加頂きますのでどうぞよろしくお願いいたします。

本日理事会に、於いて 7 月から入会 2 名の方のご承認を頂きました。

本日、出席頂いている、戸村文彦さんと私のご紹介で、大矢倫子さんです。

大矢倫子さんは、私のお客様で船橋市市場で建築工事とリフォーム工事を手掛けている会社で創業は、110 年以上の会社で専務取締役として活躍されております。3 月迄は、船橋商工会議所青年部 (YEG) 在籍していましたが、7 月よりお二人がロータリアン仲間になりますので、会員の皆様、宜しくお願い致します。

来週に迫りました、40 周年記念例会ですが、総勢 100 名の皆様にご出席頂きます。

ここまでの準備期間で、実行委員会の皆様には、大変ご協力頂き誠にありがとうございます。

心から感謝申し上げます。

今日の一言として

「勘違いするな、自分だけで出来ることなんてこの世に一つもない」

一つの仕事、一つのプロジェクト、常に数えきれないほどの人の労力によってささえられています。仕事人生も、常に「個人戦」ではなく、「団体戦」なのです。

すべては大切な縁であり、無駄な出会いなど一つもありません。

この言葉のとおり、この習志野中央ロータリークラ

ブでの出会いは、自分自身に無駄ではなく、87 歳から 35 歳迄の会員が、平等に同じ活動出来る場所は無いのではないかと思います。

40 周年記念例会が盛況でありますように、皆様ご協力をお願いします。

◆ 幹事報告 <鶴岡健一幹事>

1. ガバナーノミニー・デジグネートの公表
佐倉ロータリークラブ 平塚親兵衛様

2. 例会出席免除願い

中野尚宏会員 免除期間 4 月 1 日から 6 月末まで

◆ 委員会報告

□ 親睦活動員会 <尾崎共紘リーダー>

親睦旅行の出欠アンケートについて
回答を 4 月 12 日までにお願いします。

◆ ニコニコボックス

伊東弘樹会員

戸村さんようこそ、次年度からよろしくお願いいたします。
EEH の件で地区委員の方に大変お世話になりました

池田博会員

戸村さん歓迎します

中村隆吾会員

海月 16 周年の日頃のお礼

鶴岡健一幹事

戸村さんようこそお越し下さいました。入会予定
おめでとうございます

三田英志会員

戸村さん次年度から入会よろしくお願いいたします

◆ 卓話

□ 井上大輔会員

今日は、先日参加してまいりました PELS (会長エレクト・ラーニングセミナー) の内容と次年度のクラブ運営方針をお伝えさせていただきます。

まず、PELS 結論から申し上げますと、次年度のキーワードはこの2つです。

- ・持続可能なインパクト
- ・会員が“行きたくなる”クラブづくり

この2つを軸に、1年間進めていきたいと強く感じました。

1. RI 会長テーマ「Create Lasting Impact」

2026-27 年度の RI 会長は、

オンラインカ・ハキウム・バロラ会長(ナイジェリア)。



テーマは、

“Create Lasting Impact”

日本語では、

「持続可能なインパクトを生み出そう」

です。

この言葉は、非常に印象に残りました。

ロータリーでは、どうしても

- ・今年何をやったか
- ・何回やったか
- ・何人集まったか

に目が向きがちです。

でも次年度は、そこから一步進んで、

「その活動が、来年も再来年も、誰かの役に立つか」

ここまで考えることが求められているのだと感じました。

つまり、

- ・単発で終わるイベントより
- ・続いていく仕組み
- ・次の世代に残る価値
- ・クラブの文化として根付くこと

こういった視点が大切だということです。

言い換えるなら、

「やったかどうか」より、「残ったかどうか」

これが次年度の大きなテーマだと思います。

2790 地区、森島ガバナーエレクトのテーマも RI

テーマと統一されました。

2. PELS で感じた、会長に求められること

PELS の目的としては、大きく3つありました。

1. RI 会長メッセージを理解すること
2. 地区方針・クラブ運営方針を理解すること
3. 会長としてクラブを活性化させる準備をすること

そしてもう1つ大事なのが、

同期会長とのつながりをつくることです。

会長になると、必ず

「これ、どうしたらいいのだろう」

と悩む場面が出てくると思います。

だからこそ、

一人で抱え込まず、同期やガバナー補佐、地区に相談すること。

これも、会長として大切な姿勢だと感じました。

3. 会員増強・退会防止で一番大事なのは“クラブの空気”

今回、とても実務的で印象に残ったのが、

会員増強と退会防止の話です。

次年度は、地区としてもこの分野をかなり重視しており、今後も関連セミナーが予定されています。

その中で、私が一番大事だと感じたのは、会員増強は“勧誘の技術”より、“クラブの空気”だということです。

入会のきっかけは、

- ・仕事のつながり
- ・知人の紹介
- ・お付き合い

こういったものが多いと思います。

でも最終的に

「入ろうかな」

「ここなら続けられそうだな」

とっていただけるかどうかは、

“このクラブ、感じがいいな”

ここに尽きると思います。

だから次年度は、

- ・初参加の方にしっかり声をかける
- ・新会員を一人にしない
- ・役割は与えるが、重すぎない
- ・例会が義務感だけにならない
- ・「来てよかった」と思える雰囲気をつくる

これを大切にしたいと思います。

そして退会防止で一番怖いのは、

「忙しいから辞めます」

という言葉です。

でも本音は、

「忙しいし、行かなくても困らない」

になってしまっていることもあります。

だからこそ大事なのは、

「忙しいけど、行きたい」クラブにすること。

ロータリーを

“行かなきゃいけない場所”ではなく、

“行きたい場所”にする。

ここは次年度、特に意識したいと思っています。

4. 「トレーニング」ではなく「ラーニング」へ
 今回、個人的にとっても印象に残ったのが、
 PELS の「L」は Learning だということです。
 つまり、
 「トレーニング」ではなく「ラーニング」
 という考え方です。

- 昔のように、
- ・地区が教えて
 - ・クラブが聞く
- という一方向ではなく、
- ・みんなで学ぶ
 - ・気づきを持ち帰る
 - ・クラブごとに工夫する
 - ・実践につなげる

そういう時代になっているのだと感じました。
 単に知識を詰め込むのではなく、
 “ロータリーを通じて、自分たちも成長する”
 これが次年度の学び方だと思います。

5. ハラスメント防止・危機管理は、次年度の最重要テーマの一つ

そして今回、かなり強く打ち出されていたのが、
 ハラスメント防止と危機管理です。

これは、会長として
 絶対に外せないテーマだと感じました。

PELS では、

「ロータリーにそんなことは起きない」ではなく、
 「起きうる前提で、学び、備える」
 この姿勢が必要だと強く伝えられていました。

特に大事だと感じたのは、次の3点です。

① ハラスメントのない環境づくりは、全会員の責務
 見て見ぬふりをしない。

違和感があれば、本人やリーダーに伝える。

黙認は容認と同じということです。

② 問題が起きたら、迅速に対応する

理事会や地区が、早く、適切に動くこと。

「なかったこと」にしない姿勢が必要です。

③ 青少年に関わる案件は、さらに厳格に対応する

青少年との関わりは特に慎重に、

安全を最優先にすることが求められています。

次年度は、

- ・相談しやすい空気をつくる
- ・初期対応を明確にする
- ・青少年との関わりは慎重にする
- ・問題を曖昧にしない

この4つを意識していきたいと思います。

6. 会長の役割は「全部やる人」ではなく「みんなが動ける場をつくる人」

PELS 全体を通して感じたのは、
 次年度の会長に求められているのは、

「全部自分でやる人」ではなく、
 「みんなが動ける場をつくる人」

だということです。

会長が全部背負うと、

途中で電池が切れます（笑）

だからこそ、

- ・会長が方向性を示す
- ・幹事と二人三脚で進める
- ・理事・委員長に任せる
- ・新しい方にも役割をつくる
- ・地区の力も借りる

この形が、結果として

持続可能なクラブ運営につながるのだと思います。

これもまさに、

“Create Lasting Impact” だと感じました。

7. まとめ

最後に、PELS を通じて

私が次年度に向けて大事だと感じたことを、

5つに絞ってまとめます。

1. 事業は「やった」より「残った」

→ 持続可能なインパクトを意識する

2. 会員増強は「お願い」より「雰囲気」

→ 入りたくなる、居心地のいいクラブをつくる

3. 退会防止は「忙しい」を責めない

→ 忙しくても行きたくなるクラブを目指す

4. 学びは「教わる」から「育ち合う」へ

→ トレーニングからラーニングへ

5. 安心・安全はクラブの土台

→ ハラスメント防止と危機管理を徹底する

以上が、PELS のご報告です。

続いて、次年度のクラブ運営方針を発表いたします

26-27 年度 クラブテーマは

「Lead with Heart」 — 心ある行動が、未来を変える一です。

ロータリーで大事なものは、事業の規模や数字ではなく、まず“心”だと思っています。

- ・相手を思いやる心
- ・仲間を大切にすること
- ・地域を良くしたいという心
- ・次の世代につなげたいという心

こうした心があるからこそ、行動に意味が生まれ、人を動かし、つながりをつくり、未来につながると考えています。今年度は 心で動き、心でつながり、心で未来をつくる一年 にしたいと思っています。

また 2026-27 年度の RI テーマは「Create Lasting Impact (持続可能なインパクトを生み出そう)」です。私はこれを、クラブテーマとこう結びつけています。

Lead with Heart = 行動の原点

Create Lasting Impact = 行動が生み出す結果

心のこもった行動は、人の記憶に残り、信頼を生み、やがて持続可能なインパクトにつながると考えています。

3つの柱

1. 参加したくなるクラブづくり

会員増強や退会防止も大切ですが、本質は“また来たい”と思える空気づくり です。

【目指すクラブ像】

- ・“行かなければならないクラブ”ではなく“行きたくなるクラブ”

- ・誰もが安心して参加できる温かいクラブ
- ・新しい会員が自然に馴染めるクラブ
- ・ベテランと新しい会員が交流しやすいクラブ

親睦もとても大切にしたいです。

親睦を通じて理解や信頼が深まり、本当の仲間になりますし、親睦が深まるほど奉仕の力も大きくなると思います。笑顔で集まれるクラブを大切にしていきたいです。

【具体的な取り組み】

- ・初参加や新しい会員への自然な声かけ
- ・お互いを尊重し、認め合える空気づくり
- ・年齢や立場を越えて気持ちよく参加できる運営
- ・会員一人ひとりにスポットが当たるよう、テーブルごとのフリートークやミニスピーチを設け、互いの仕事や経験、人柄を知る機会をつくる
- ・SAA の皆さんの協力で席を工夫し、自然な交流が生まれるようにする
- ・第 12 グループ野球部の試合を皆で応援する移動例会など、一体感を感じられる機会をつくる

2. 誇れる奉仕の実践

奉仕はロータリーの原点です。

回数や規模だけでなく、誰かの心に残る活動に重きを置きたいです。

【基本方針】

- ・心が伝わる奉仕
- ・地域ニーズに合った活動
- ・会員が参加しやすい活動
- ・子どもたちや次世代につながる活動
- ・継続性のある活動

奉仕活動の具体例（希望として）

【新規事業】

- ・ダバオの方々への衣料支援
河手奉仕プロジェクト委員長と協力し、厳しい環境にある方々へ、まだ使える衣料品を届けられればと思います。
現地ロータリークラブとの関係づくりもスタートできればと考えています。
- ・職業奉仕（小学生対象の野球教室や公式戦への招待）
杉山職業奉仕委員長と協力し、子どもたちが夢や目標を持つ大切さを学べる場をつくりたいと考えています。

【既存事業のより良い工夫】

- ・放課後児童会向け EEH プロジェクト
地区補助金 5 年計画 4 年目として、さらに充実した活動にしたいです。
児童との接点を増やすため、物品選定について会員が児童とディスカッションする機会をつくれなにかと考えています。
- ・きらっと祭りへの出店
青少年に喜んでもらえる出店を継続し、クラブの奉仕活動やポリオ撲滅の取り組みを広報し、寄付や応援を増やしたいです。
- ・地域のごみゼロ運動
開催場所を工夫し、会員と会員以外の参加者の基

盤を広げられればと思います。

- ・花の実園さくら祭りでの青少年向けアート体験
中西会員と連携し、子どもたちの感性や創造力を育む機会を提供できればと思います。

広報・公共イメージ

- ・ホームページや SNS での発信を習慣化し、地域やロータリーに関心のある方々に活動の思いや内容を伝える
- ・奉仕活動や青少年向け事業の価値をしっかりと伝え、クラブの公共イメージを高める
- ・EEH やきらっと祭りで渡せるリーフレットを作ってはどうか。習志野中央 RC で何をしている？ポリオって何？等。

米山・ロータリー財団への関わり

- ・米山記念奨学事業やロータリー財団を通じて、国内外の未来を支える活動に関わる
- ・米山奨学生との関わりを大切にし、その学びや成長を応援する
- ・寄付は、強制ではなく事業への理解と応援の気持ちを大切に行います
- ・無理のない範囲でご協力をお願いしたい
- ・今年度は、地区の目標額の 1.5 倍を目指したいと思っています

米山特別寄付は一人当たり 22,500 円

ロータリー財団の年次寄付は一人当たり 225 ドル

- ・そのためにも、まずは私たち自身の本業でしっかり利益を出すことを意識していきましょう

3. 次世代へつなぐ一年

単年度の成果だけでなく、「次のクラブに何を残せるか」を意識した一年にしたいです。

- ・会員一人ひとりが力を発揮できる場をつくる
- ・新しい人に役割をつくる
- ・新しい会員が自然に馴染める環境を整える
- ・経験や知恵を次世代へ継承する
- ・続いていく仕組みを意識した運営にする

会員の皆様へのお願い

今年度は「みんなで、いい一年をつくる一年」にしたいと思っています。

お願いしたいことは 5 つです：

- ・例会に少しでも顔を出す Zoom でも早退、遅参でも。
- ・新しい会員に一言声をかける
- ・奉仕活動に一步だけでも参加する
- ・「もっと良くなる」アイデアを共有する
- ・例会や事業を会員全員で準備し、みんなでつくり上げる

一人ひとりの心ある行動の積み重ねが、クラブの空気を変え、未来をつくっていると思っています。

結びに、

Lead with Heart

～心ある行動が、未来を変える～

- ・心で動き
- ・心でつながり
- ・心で未来をつくる

参加したくなるクラブ
誇れる奉仕
次世代へつなげる仕組み

皆さんと力を合わせて、習志野中央ロータリークラブを笑顔あふれる、より良いクラブにしていきたいと思います。一年後、「良い一年だった」「参加していて良かった」と言い合える一年にしていきたいと思います。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

◆ 第8回花の実園さくらまつり 2026

2026年4月4日(土)・5日(日)

会場 花の実園



◆ 出席委員会 河手正直委員

会員数	当日 出席	メイク アップ	出席 免除	出席	欠席	出席率
46	28	4	1	32	13	68.89%

